男子興南13連覇

高校ハンド　女子那覇西9度目栄冠

興南―コザ　速攻からシュートを決める興南の島袋道人＝22日、八重瀬町東風平運動公園体育館

優勝した興南のメンバー＝22日、八重瀬町東風平運動公園体育館

ハンドボールの第54回県高校選手権は22日、八重瀬町東風平運動公園体育館で男女の決勝までを行った。男子決勝は興南が28―25でコザに勝利し、13年連続35度目の優勝を飾った。女子決勝は那覇西が25―22で浦添に競り勝ち、2年連続9度目の栄冠を手にした。

【男子】
▽準決勝
興南 34―21 知念
コザ 36―19 那覇西
▽決勝
興南 28（9―17、19―8）25 コザ

【女子】
▽準決勝
那覇西 31―12 南風原
浦添 42―12 那覇国際
▽決勝
那覇西 25（13―12、12―10）22 浦添

王者の意地、結果残す　興南

○…男子決勝は、興南が序盤から10連続得点で主導権を握るかに見えたが、細かなミスと声掛け不足でコザに迫られ、28―25で逃げ切る勝利となった。新チームの課題も浮き彫りとなったが、13連覇で王者興南のプライドは守った。

個人技に定評がある瑞慶山充希や貪欲さが増した島袋道人らバックプレーヤーが軸となる中、左サイドの平田理雄が攻撃の安定感を増し、守備ではパスカットからワンマン速攻を決めるなど活躍した。沖縄東中出身のGK中村護は、中学時代の仲間たちを相手に「今日は調子良かったです」と好セーブを連発した。

新チームの可能性を探る大会を制した瑞慶山は「守備の声掛けを意識し、興南らしいハンドで勝ち続けたい」と、伝統に恥じない結果を残していく意気込みを語った。

状況判断の良さ発揮

那覇西

浦添―那覇西　味方ポストが作ったスペースからシュートを放つ那覇西の金城望子＝22日、八重瀬町東風平運動公園体育館

優勝した那覇西のメンバー

結果よりも個々の能力向上を目指して臨んだ那覇西。部員18人中1年生が14人だが、2年生の安定感を軸に、1年生の金城菜々子や金城望子らが躍動した。

GK比嘉楓や砂川茉穂がナショナルトレーニング参加で不在。全体的なポジションも確定しない状況だった。その中でも2年の久場川かりんがコントロールした。右バックの金城菜のきっかけづくりから、久場川がつなぎ、左バックの金城望が相手守備を素早く抜けてシュートを決めるなど、状況判断の良さも発揮した。

浦添は守備がしぶとく、攻撃もパワフル。後半は3度の逆速攻などで同点とされたが、右サイドの上間望愛から金城菜がスカイプレーを決めて流れを引き寄せると、守備が引き締まり、相手からチャージングを奪って得意の速攻につなげて再びリードをつくった。

比嘉律監督は「今日は挑戦者の立場。その中で勝てたのは大きい。面白いチームになりそう」と伸びしろに期待する。1年生のプレーにはまだ波があるものの、金城望は「指示通り相手守備のずれを狙えた」と笑顔だった。チームの習熟度が上がるにつれ、レギュラー争いも激しくなる。左サイドで活躍し、決勝もスタメンを任された新垣琉夏は「守備のマークチェックを頑張り、速攻では一番に飛び出せるサイドになりたい」と、切磋琢磨（せっさたくま）する気持ちを見せた。

（嘉陽拓也）